



認定NPO法人
アジア人文文化交流促進協会
Japan Intercultural Intelligence (JII)
Certified Nonprofit Organization

2025

ANNUAL REPORT

2025/4/1~2026/3/31

ミッション

外国人住民が日本社会になじみやすくする

ビジョン

外国人を含めた多様性を活かす「文化共生」の実現

JIIの考える「文化共生」とは——

人びとがそれぞれの文化の良さを保ちながら、様々な文化の持つ素晴らしさを楽しむこと、互いにとって暮らしやすい「良き隣人」として生きること、素晴らしい文化同士の出会いによって、新たな公共文化や価値を創造することです。

目次

2	ごあいさつ
3	役員紹介
4	事業概要・私たちのアプローチ
5	活動ハイライト・多文化共生の課題
7	活動レポート
	（１）おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム（OFP）
9	（２）スポットおとなりさん（SPOT）
10	（３）おとなりさん・コーポレート・プログラム（OCP）
11	（４）情報提供・相談窓口事業
12	（５）難民・避難民生活支援事業・（６）地域多文化共生協働事業
13	協働・協力
14	活動収支報告
15	JIIチームからのメッセージ
17	JIIの歩み・2026年度のJII
18	ご支援のお願い

日本に長期滞在する外国籍の人の数が、この5年ほど急増しています。これは、日本の人口が徐々に減少してきているのと対照的です。

ただ、外国に生まれ育った人たちが日本で暮らしていくには、多くの障壁が横たわっています。言語の壁、情報入手の壁、就労や就学の壁、近所付き合いの壁、などなど。

こういった壁は、ここ数年のAIの進歩によって随分低くなりました。AIは、遠く離れた故郷の家族や友人との交流も、ずいぶん手軽にしてくれます。とはいえ、壁を取り払うには、AIの進歩だけでは不十分です。残念なことに、必要な関連法の整備や行政サービスは立ち遅れたままです。今ほど民間からの支援が求められている時はありません。

「外国人と日本人が、良き隣人として新たな公共文化や価値を創造しあえる共生社会」———この形成を目指して、私たちは2018年から試行錯誤を繰り返しつつ、様々な活動を開発・展開してきました。その中で2020年に始まったおとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム（OFP）事業は、着実に成長し、多くの実を結んでいます。

このプログラムへの参加資格は、外国人メンバーは「日本で長く生活したい」希望を、日本人ボランティアは「日本で生きてきた」体験を、各々持っているということだけです。両者が一人ずつペアを組み、交流しながら生活をサポートし合っていくプログラムです。

他の事業も、順調に成長・拡大しています。多くの方々のご支援のおかげで、2026年の6月から認定NPO 法人の資格を認められ、寄付金への税制優遇制度が受けられるようになりました。

「小さな楽しい関係の積み重ねから、世界全体の寛容化へ」

ぜひあなたも、活動に参加し、自らのタレントに応じた支援をしてください。

理事長 石川 憲彦

役員紹介

理事長

石川 憲彦

Ishikawa Norihiko



児童精神科医。

人生の大半は、大学（東京、マルタ、静岡）で障害児・者の医療と社会臨床の実践・研究に従事。退官後開業した林試の森クリニック引退後、フリーの精神科医として子どもやマイノリティーの社会参加をサポート。

一人の人間としては、「誰もが例外なくマイノリティー」。そんな一人一人と互いに尊重し合っていると感じるのが、一番充実した時間。

理事

中村 安秀

Nakamura Yasuhide



公益社団法人日本WHO協会理事長・
大阪大学名誉教授。

インドネシアやパキスタンなど国際保健の現場で活躍し、母子健康手帳を世界に広めた。国内では、医療通訳士の普及など外国人医療の質の向上に努める。

どこの国にいても子どもがいちばん好き。

理事

田畑 智砂

Tabata Chisa



弁護士・東京弁護士会所属。

マザーバード法律事務所代表。

弁護士法人パートナーズ法律事務所（東京）、Siam City Law Offices（バンコク）勤務を経て、同事務所を設立。

東京都内の児童相談所及び子ども家庭支援センターの非常勤弁護士。

理事・事務局長

楊 淼

Yang Miao



ファウンダー・文化交流コーディネーター。

心理学専攻。日中間政治、経済、文化に関わる国際専門会議にて事務局兼通訳。2010年にNPO法人アジア人文文化交流促進協会を設立。大手企業向け人材育成、人事・組織コンサルティング会社、海外現地法人実務責任者を経て、日本に暮らす外国人住民のサポートに専念する。

監事

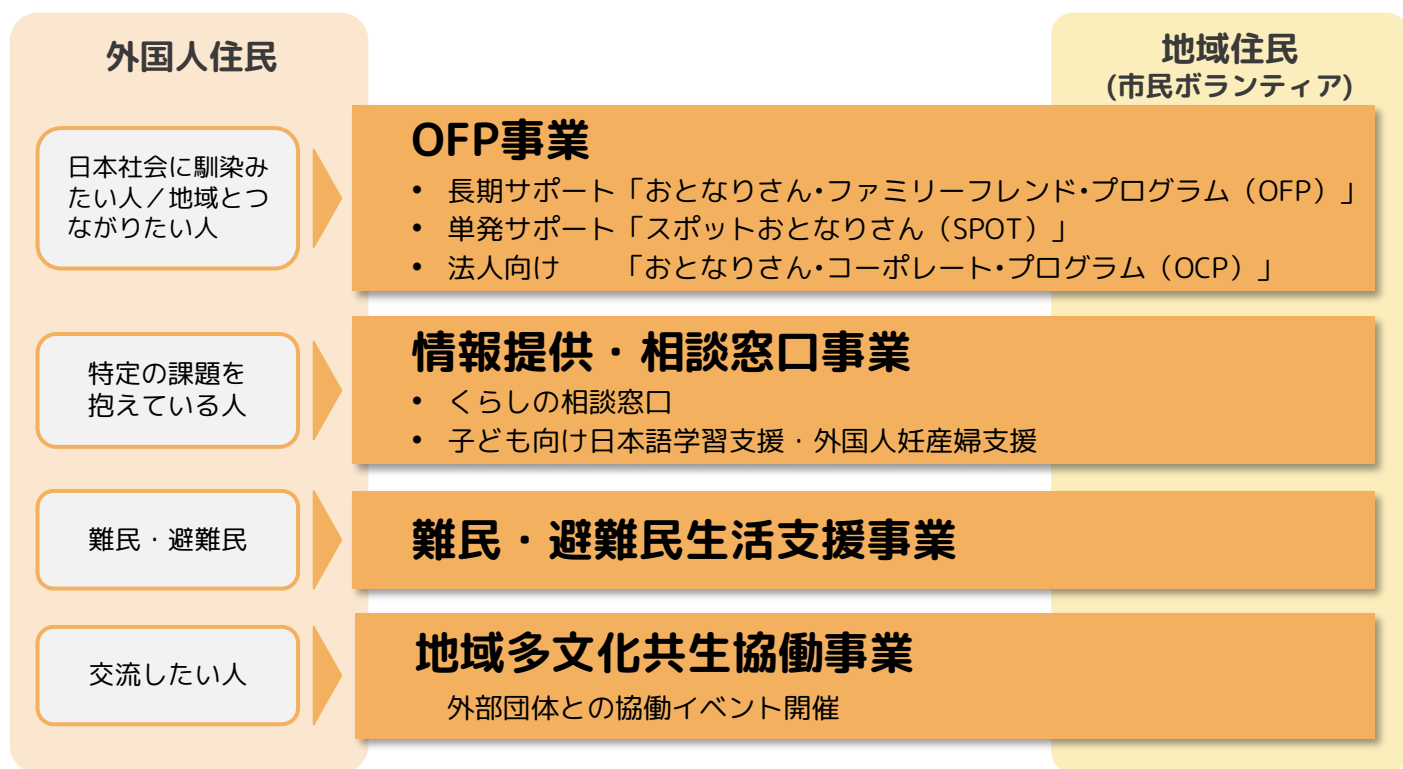
植松 真理子

Uematsu Mariko



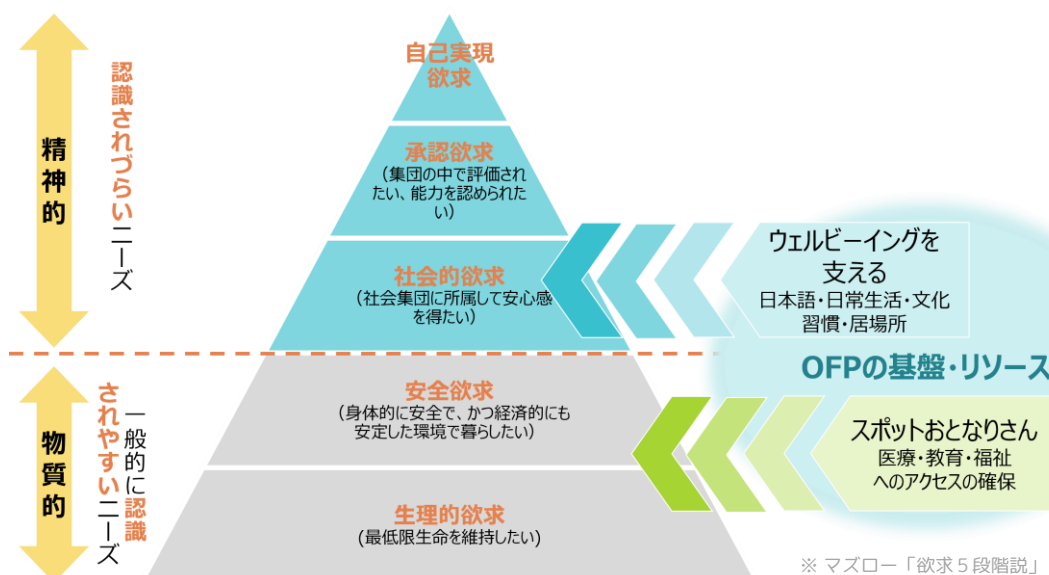
監事として、理事の業務執行や財産の状況を第三者の目線で確認する役割を担っています。活動そのものに直接関わる役割ではありませんが、立場や考え方の違う人同士が同じ目線で助け合うことこそが力を出し合える関係を生むのだと感じ、JIIの活動を尊敬しています。

事業概要



私たちのアプローチ

外国人住民が日本社会になじむよう、
個人のウェルビーイングの実現と地域コミュニティへの参画をサポートします



外国人住民への深い理解

寄り添う支援で日本社会での自立をサポート

リアルな関わり

交流を通して新しい文化と価値を生み出す

市民主体

外国人住民と日常的に関わり、
共生の実体験や経験を積む

継続的な信頼関係

互いの理解を深め長期的な信頼関係を築く

2025年度 活動ハイライト

有給職員 **6** 名
運営ボランティア **170** 名
プロボノ **8** 名

事業収益 **977** 万円
うち、受取寄付金 **302** 万円

リソース

アウトリーチ数
推定 **10,500** 名

受賞 1 回 講演 5 回
ラジオ出演 1 回 イベント 4 回
連携団体 10 団体

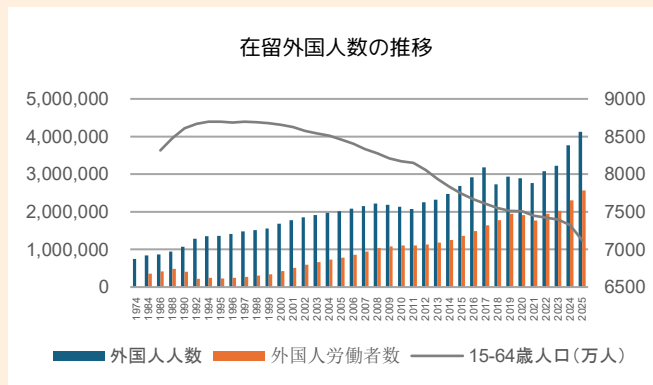
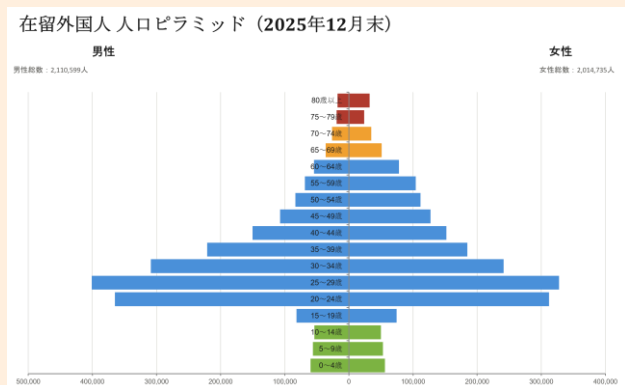
社会認知

日本の労働人口の減少を背景に増えた外国人住民

日本は、出生数と現役世代人口の減少に伴い、労働力不足と経済規模の縮小に直面しています。さらに、高齢者人口の増加により、社会保障制度の持続可能性にも不安が高まっています。こうした背景のもと、現役世代を中心に外国人住民は増えています。

外国人住民は、「労働力」という側面から語られることが多くあります。一方で、経済や社会保障を支える「生活者・住民としての側面」も忘れてはいけません。また、地域社会の一員として、地域を支える担い手になることも期待されています。

外国人住民が増えても、日本の人口減少という大きな流れが変わるわけではありません。ですが、同じ社会を構成する住民同士が、互いに支えあい、学びあうことができれば、誰もが安心して暮らせる、より豊かな社会を築いていけるのではないのでしょうか。



※入国管理局データを元に作成

活動内容

- OFP & SPOT
- OCP
- 外国人妊婦向け「出産・産後ワークショップ」
- 子ども向け日本語学習支援
- 難民・避難民生活支援事業
- 地域多文化共生協働事業

※ 各事業の詳細はP.7～12をご覧ください。

活動

受益者

- OFP & SPOT **203 名**
- 子ども日本語学習支援 **209名**
- 情報提供 & 相談 **86 名**
- 難民・避難民 **4 名**

社会的 成果

なぜ外国人との共生に取り組むのか

▶ 情報不足

- 日本語を学ぶ機会が少ない
- 医療、教育、福祉にアクセスできない
- 日本の制度、社会システムを学べない
- 日本の文化・習慣を学ぶ機会がない
- 気軽に相談できる相手がいない
- 妊娠・出産・育児に困難が多い

▶ 孤立

- 地域とのつながりがない
- 日本人との接点がない
- 会社や学校で孤立しがち
- 人間関係が狭い（職場や学校のみ）
- 身近にヘルプしてくれる人がいない

外国人住民の多くが、「情報不足」や「孤立」といった課題を抱えているにも関わらず、その実態はあまり知られていません。近年、日本でも排外的な言論が広がり、外国人住民に関する誤解や不確実な情報が拡散されることで外国人へ不安や警戒感を抱く人が増えています。また、政府による外国人受け入れ政策の見直しにより、外国人住民を取り巻く環境は、これまで以上に不安定さと不安が増している状況です。

外国人住民は単なる「労働力」ではなく、社会の一員として日本社会や経済を支え、地域社会の担い手にもなろうとしています。安心して暮らせなくなってしまうと、今いる人々に大きな不安が広がるだけでなく、今後、日本に憧れをもつ海外の若者に対しても後ろ向きなメッセージを与えかねません。長期的には、日本の国際的な信頼や魅力を損なうことにつながる可能性もあります。

「知らないことが不安や偏見を生む。」社会に広がる漠然とした不安と誤解を解消するには、直接的な関わりと対話ができる信頼関係を築くことが最も効果的な方法の一つです。今だからこそ、日本人と外国人の間にある見えない壁に風穴を開け、「顔の見えるリアルな関係」と「対等な交流」を通じて相互理解を深めることが不可欠だと私たちは考えます。

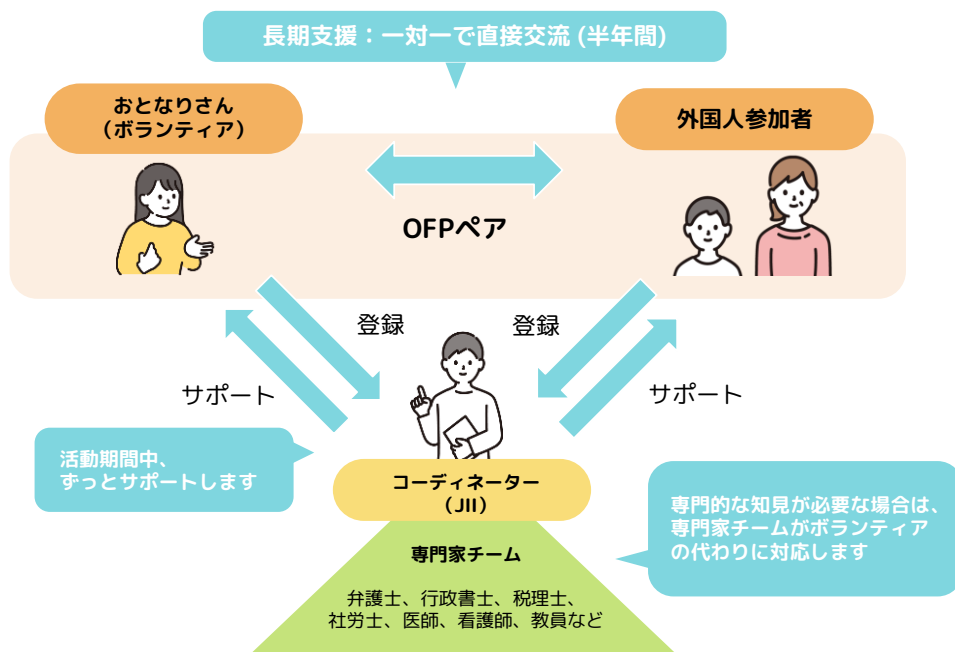
(1) おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム (OFP)

おとなりさん・ファミリーフレンド・プログラム (OFP) は、日本での生活に慣れていない外国人住民へのコミュニケーションサポートプログラムで、日本で初めての取り組み※です。(※当会調べ)

地域に住む日本人ボランティア（おとなりさん）が外国人住民とペアを組み、交流を通じて彼らの生活をサポートします。外国人住民がボランティアを介して日常的な日本語での会話や日本文化・習慣に慣れることで、言語力や生活力を自然と身につけ、自信とともに自立した生活へとつなげます。

対象者：東京都+近郊県に暮らす外国人住民（来日約8年以内。それ以上の方も相談可）

活動例：日本語の練習、生活習慣・文化に関する相談、地域活動への参加、友人としての付き合いなど



2025年度活動実績

◆ 説明会開催

67 回/年

◆ 新規申込者

215 名/年

◆ 年間活動ペア数

96 ペア

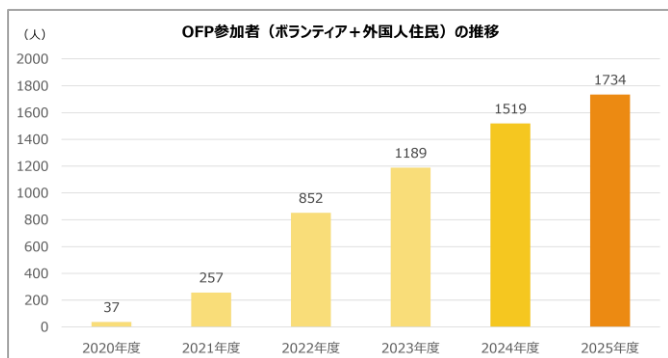
◆ ペア完走率

97 %

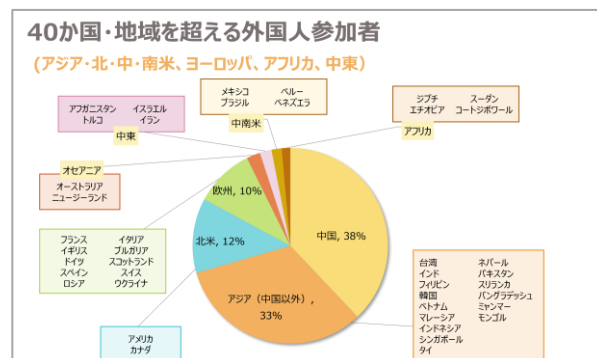
◆ 参加者満足度

84 %

◆ 累計申込者 **1,734** 名



◆ 外国人参加者の出身地



おとなりさんペアのストーリー

- ・外国人参加者 : エンさん（ベトナム出身、在日3年）
- ・日本人ボランティア：恵美さん

ベトナムから来たエンさんは、日本に住んでいてもあまり日本人と関わる機会がありませんでした。もっと日本語を話す機会が欲しいと思っていた時、インターネットでOFPを見つけました。「とにかく日本語を勉強したい」という気持ちで参加を決め、日本人のおとなりさん・恵美さんとペアになりました。



日本人とリアルに交流することにどんな思いがありましたか？

日本語を練習したいことと、日本に来る前は日本人や日本という国に対して、いろいろなバイアスや先入観がありました。日本人と実際に付き合っていく中で、その先入観を解いていけたらいいなと思って、参加しました。



エンさん

どのようにしてお互いの距離を縮めましたか？

恵美さんの家の近くで毎月開かれている座談会に時々一緒に参加しました。悩みや嬉しかったことを話して、会が終わるといつもみんなでご飯に行って、おしゃべりをしました。日本人は簡単にお家に招待しないとベトナムで聞いていたけど、恵美ちゃんはお家にも招待してくれてびっくりしました。本当にありがたかったです！



エンさん

どんな交流をしましたか？



恵美さん

ベトナム戦争について教えてもらったり、日本の歴史を伝えたりして、お互いの歴史の話をよくしました。また、人生の話、仕事の悩み、嬉しかったことも、たくさん話しました。エンちゃんみたいな良い人に出会えたことが嬉しくて、自分の友人にも紹介しました。最初はみんな「ベトナムのエンちゃん」と言っていたのですが、何度も顔を合わせるうちに、国籍や文化ではなく、「エンちゃんという人の人柄」が見えてきました。みんなで国という枠を超えてその人の人柄に感謝できるような関係を築けたのがとても良かったです。

恵美ちゃんは私より年下だけど、キャリアや人生、そして恋愛の悩みも、なんでも相談してアドバイスをもらっていました。



エンさん

交流を通して、自身に変化はありましたか？



恵美さん

エンちゃんという一人の人を通して、ベトナムのご家族のことや日本での苦勞を知り、そして日本で頑張っている姿をたくさん見せてもらいました。日本に暮らす外国人一人ひとりが、それぞれの物語と想いをもちながら生きているんだということを感じられたのが良かったです。日本で働き、日本に暮らす海外の方々への尊敬の念というか、「一緒に生きているんだ」ということを強く実感できました。

お二人の経験から、日常的な交流やサポートが国籍や属性を超えて「その人自身」と出会う体験へと変わっていく様子が伺えました。OFPは、誰かを一方的に助けることではありません。同じ時間を共有し、お互いの歴史や文化、喜びや悩みを分かち合う中で、それぞれが新しい景色を見ることができる。そうした出会いの積み重ねの先に、多様性を尊重し合う明るい未来があるのではないのでしょうか。

(2) スポットおとなりさん (SPOT)

スポットおとなりさん (SPOT) では、外国人住民が日常生活で直面する困り事に対し、日本人ボランティアが単発でサポートします。外国人が生活の中で感じる不便、困難、不安を解消するだけでなく、ボランティアにとっては外国人住民と直接関わることによって相互理解を深める機会にもなります。

対象者： 東京都+近郊県に暮らす外国人住民

サポート内容： 福祉/医療/教育/ライフラインに関わる生活に欠かせない分野の課題に対して、手続きや言語面を中心とするサポート



■ サポート実績

外国人住民自身だけでは解決が難しい日常生活の困りごとに対し、日本人ボランティア（おとなりさん）が実際に同行したり、同席したりすることで手続きをサポートします。

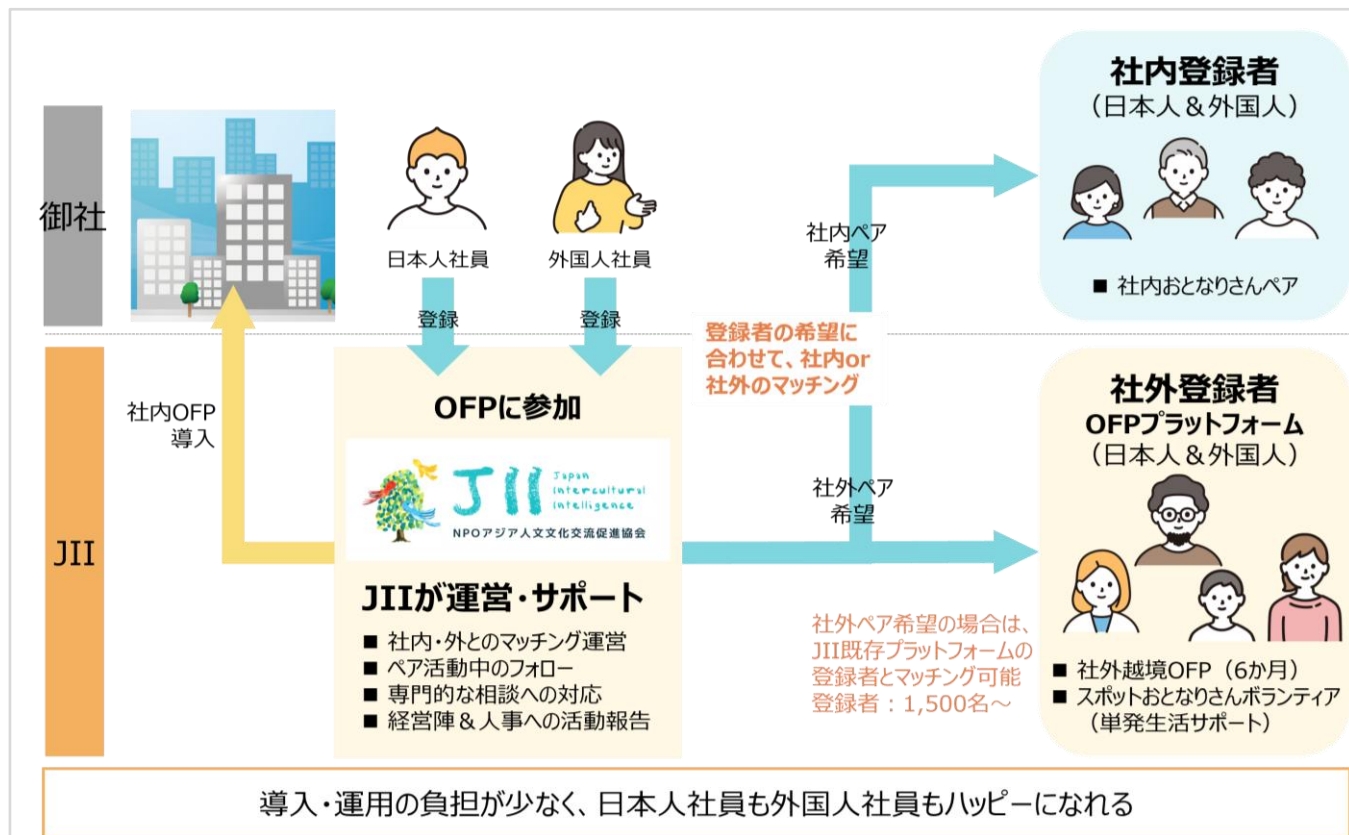
子どもの定期検診／病院受診の電話予約／保育園の見学／区役所での手続き／税務署への相談／引っ越し手続き／ガス開通時の立ち合い／外国の運転免許切り替え手続きなど、幅広くサポートしました

利用者の声

- 「おかげさまで免許の切り替え手続きはスムーズに進み、筆記試験にも合格することができました。 サポートしてくれた方に本当に感謝しています。」（インド出身）
- 「保育園見学や申請手続きで、言われていることをすべて通訳してくれてとっても助かりました。」（カナダ出身）
- 「保育園の先生との面談の通訳サポートをお願いしました。おとなりさんは時間通りに来てくれて、礼儀正しく、辛抱強く通訳してくれました。とても暖かく、フレンドリーな方でした。」（フィリピン出身）

(3) おとなりさん・コーポレート・プログラム (OCP)

法人向けプログラムをスタートしました。
お気軽にお問い合わせください。



外国人社員の
安心



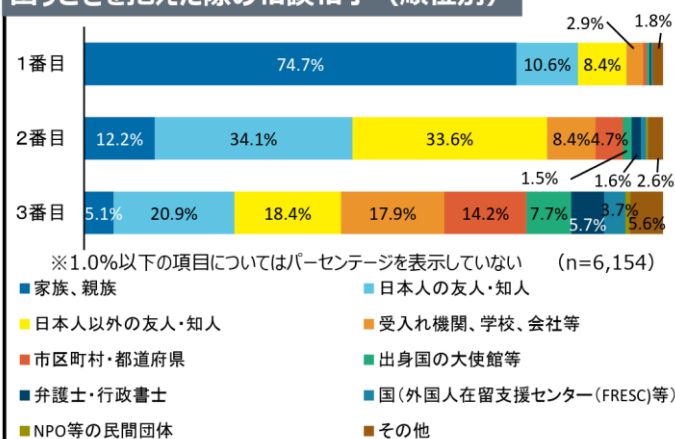
日本人社員の
成長



地域とともに
企業価値の創出

～外国人社員と地域をつなぐ共生の仕組みを通じて、
社員と企業の成長をサポートします～

困りごとを抱えた際の相談相手（順位別）



令和5年入管庁による在留外国人基礎調査

～外国人社員の悩み～

- ・ プライベートの課題や悩みについて所属機関に相談しない人も多く、相談窓口だけでは解決しないことも多い
- ・ 職場で差別されたと感じる外国人従業員が増えている
- ・ 帯同家族へのケアが不十分
- ・ 職場だけの人間関係に孤立感や窮屈さを感じる

(4) 情報提供・相談窓口事業

■ 外国人妊婦向け「出産・産後」ワークショップ (英語)



参加した外国人妊婦さん
約10 か国から **27** 名



講師
聖路加国際大学大学院
看護学研究科
五十嵐ゆかり 教授

日本で安心して出産を迎えるための ～ 学びとつながりの時間 ～

2023年から始めた英語で外国人妊婦向けの「出産・産後ワークショップ」。より多くの妊婦さんにご参加いただけるよう今年度は計2回開催しました。

ワークショップでは、出産時の注意点、日本での妊産婦ケアの仕方、病院とのコミュニケーションや赤ちゃんの沐浴や産後のセルフケアなど、実生活に役立つ内容まできめ細やかに伝えました。また、出産・産後に向けて参加者同士で気持ちを共有する時間も設けました。

参加者の声

「画像や動画を使った説明がとても理解しやすかったです」
「日本語があまり得意でない夫が英語で日本での出産事情を理解できる機会があって、とても助かりました」

■ 外国にルーツがある子ども向け日本語学習支援：はなまるクラス



※ 隔週土曜日に目黒区にて開催

2025年度参加人数 (延べ)
子ども **114** 名 保護者 **95** 名

はなまるクラスは、小学校入学前～低学年の外国にルーツを持つ子どもを対象とした日本語学習支援を行っています。

日本の学校の宿題、音読、工作やカードゲームなど、子どもそれぞれの興味と日本語レベルに合わせて、日本語に親しみ、楽しみながら学べる機会を提供しています。また、子どもが学ぶそばで、保護者に日本語での会話を練習する機会も提供しています。

はなまるクラスは、OFPに登録している日本人ボランティアに支えられています。2024年に開始してから多くの子どもたちとその保護者にご参加いただき、継続的に子どもたちが学べる場として認識されてきています。

参加者の声

「日本語ができず、子どもに宿題を教えることができません。子どもの日本語を直してくれてとてもありがたいです。」「子どもにもっと日本語ができるようになってほしいです。」「いつも楽しみにしています！」

(4) 情報提供・相談窓口 / (5) 難民・避難民生活支援事業

■ 暮らしの相談（専門家相談窓口）

外国人住民が日本で暮らす上で直面する
困りごとの相談窓口です。

川と専門家ネットワーク（弁護士、行政
書士、税理士、社労士、医師、助産師、看
護師、教員、キャリアコンサルタント等）
が一緒にサポートします。

外国人住民のだれでも無料で相談できます。

■ 難民・避難民生活支援

これまで支援してきた避難民家族に対して、
引き続き定期的な見守り、日本語学習、在留
資格の変更、就職・転職相談、子どもの通院、
病院同行、医療機関の情報提供、保育園入園
申請補助、学校とのコミュニケーション、
地域とのつながり作りなどのサポートを行
いました。

支援した人数 **4 名**
(うち、子ども2名)

(6) 地域多文化共生協働事業

■ イベント



2025年12月
川主催おとなりさん交流会



2025年12月
JTBSツーリズム ビジネス
カレッジ学園祭「鴨祭」



2026年3月
めぐろ国際交流
フェスティバル

■ 講演・登壇



■ 2025年12月 ソノリテ・サイボウズ主催
「NPOサミット2025」

■ 2025年7月 あいぽーと徳島主催
「人権教育啓発リーダー養成講座」

■ 2026年1月 目黒区主催
「違いを力に変える～若い力で考えよう、
多文化共生と人権～」

■ 2026年1月 かめのり財団主催
「多文化共生の担い手ネットワーク会議
2025in 東京」

協働・協力～JIIへのご支援をありがとうございます！～



受賞

第12回「プラチナ・ギルドアワード」 (認定NPO法人プラチナ・ギルドの会)

「プラチナ・ギルドアワード」は日本社会が抱える多様な課題の解決に取り組む個人・団体を顕彰し、その活動を広く社会に伝えることを目的とされている事業です。

この度、JIIの取り組みをその一つとして選ばれました。大変光栄な機会をいただき、心より感謝申し上げます。

助成



新型コロナウイルス感染下における
外国にルーツがある人々への支援活動応援助成



協賛

BELTA

一般社団法人 光美江記念会

協力・協働団体

■ NPO・団体

- ・ 特定非営利活動法人 Mother's Tree Japan
- ・ Start with a Friend (SwaF) (ドイツ)
- ・ 一般財団法人 日本アジア共同体文化協力機構 (JACCCO)
- ・ 公益財団法人 茨城県国際交流協会
- ・ 公益財団法人 日本ユースリーダー協会
- ・ 独立行政法人 国際協力機構 (JICA)
- ・ 下目黒五丁目自治会／原町会／祐天寺町会

■ 教育機関

- ・ 聖路加国際大学
- ・ 国立政策研究大学院大学

■ 協力企業

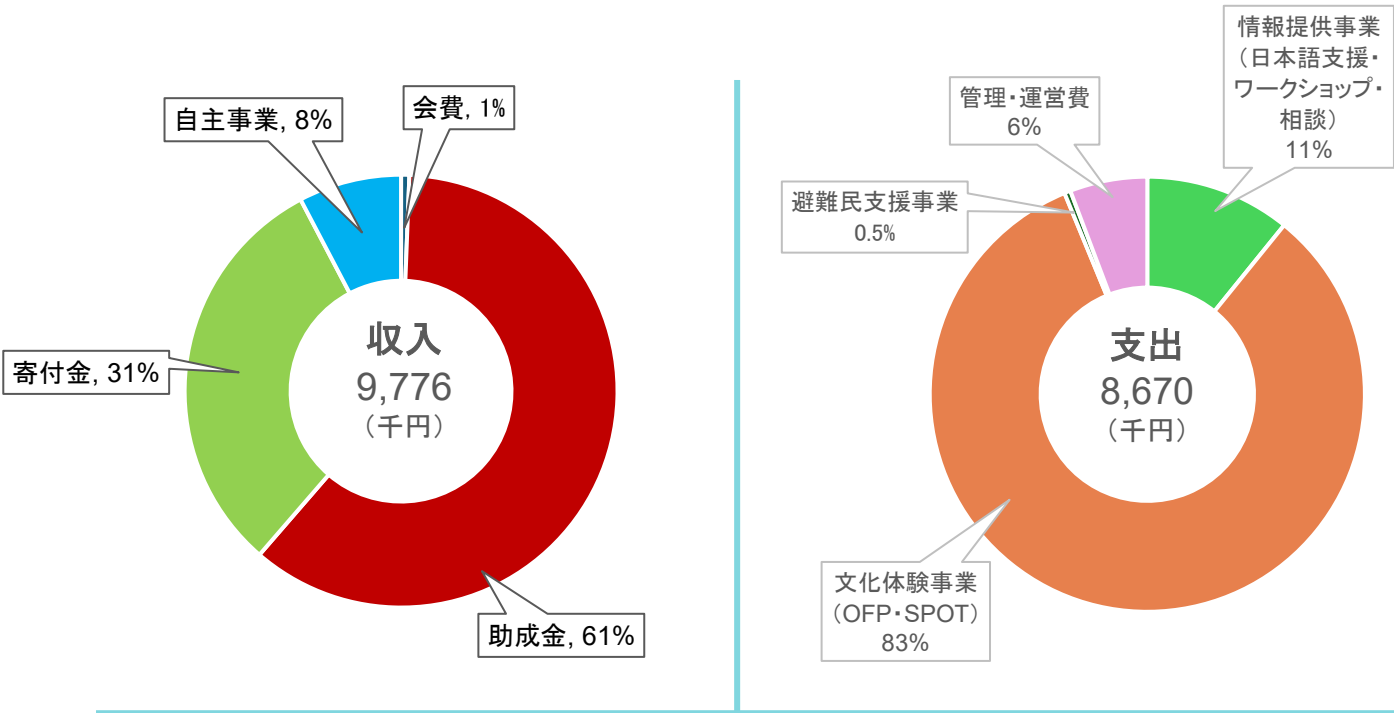
- ・ 社会福祉法人 徳心会 (こぶしえん)
- ・ 株式会社システートソリューションズ
- ・ 株式会社ベルタ
- ・ LIFT合同会社
- ・ 株式会社konowa

取材・メディア掲載

- ・ KBS京都「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」

活動収支報告

2025年4月1日 ~ 2026年3月31日



活動計算書

(単位: 円)

	科目	金額	
① 経常収益	受取会費	60,000	
	受取寄付金	3,025,170	
	受取助成金等	5,935,000	
	事業収益	751,668	
	その他収益	4,526	
	経常収益 計		9,776,364
② 経常費用	【事業費】		
	人件費		6,676,646
	その他経費		
	諸謝金	68,077	
	印刷製本費(事業)	126,190	
	会議費(事業)	78,623	
	旅費交通費(事業)	103,835	
	通信運搬費(事業)	290,323	
	広告宣伝費	408,731	
	その他	420,118	
	その他経費 計		1,495,897
	事業費 計		8,172,543
	【管理費】		
	人件費		432,000
	その他経費		67,356
	管理費 計		499,356
	経常費用 計		8,671,899
	当期経常増減額		1,104,465
	税引前当期正味財産増減額		1,104,465
	当期正味財産増減額		1,104,465
	前期繰越正味財産額		3,254,936
	次期繰越正味財産額		4,359,401

川チームからのメッセージ

■ 事務局スタッフ



楊 森
理事・事務局長

2025年は変化の大きい一年でした。難しい状況の中でも、スタッフや多くの方々の支えのおかげで活動を維持できました。認定NPOとして新たなステージに立った今も、初心を忘れず、未来を見据えて着実に歩んでまいります。



小林 優里
チーフコーディネーター

私たちがゆっくりとでも着実に活動を広げていけるのは、多くの皆さんの共感とご協力・ご支持のおかげです。

これからも一つ一つの出会いを大切に、事務局として皆さんのお手伝いをさせていただければと思います。



Aryal Shivakoti Raksha
コーディネーター

皆さまからいただいた励ましと信頼のおかげで、私たちは活動を成長・発展させることができました。これからもこの歩みを大切にしながら、人と人とのつながりと相互理解を深める機会をさらに広げていきたいと考えています。



清水 歩
コーディネーター

それぞれの立場や背景を理解しようとすること、想像することを重ねながら、心地よく共に楽しめる社会とはどのようなものなのか、これからも様々な角度から皆さんと一緒に考えていけたらと思います。



藤田 桂子
コーディネーター

JIIでの活動を通して、多くの出会いや理解が生まれる瞬間に立ち会えたことを嬉しく思っています。

これからも皆さんと共に、想いのつながりが広がっていくことを願っています。



猪股 早輝子
コーディネーター・広報

外国人の方々の多様なニーズに寄り添い、JIIが歩みを広げていけるのは、多方面からの皆さまのサポートと応援のおかげです。本当に心強く思います。いつもJIIを支えてくださり、心から感謝いたします。

一緒にJIIを支えてくださり、ありがとうございます！

■ OFPサポーター

OFPの運営には、多くのボランティアによって支えられています。その中でも、OFPの説明会の際に参加者一人ひとりのニーズや条件を丁寧にヒアリングする「OFPサポーター」は欠かせない存在です。今年度は6名の方にご協力いただきました。

海外生活の経験からJIIの理念に強く共感し、2024年よりヒアリングサポーターとして活動しています。OFPで出会った外国人の方々が、交流を通して「ここに友達がいる」「日本に自分の居場所がある」と感じてもらったとき、大きなやりがいを感じます。また、ヒアリングでは外国人やボランティアの方々の参加への思いに触れ、私自身も多くの刺激をいただいています。



渡邊 香菜さん

OFPサポーター

■ はなまるクラスボランティア

はなまるクラスは、日本人ボランティアが運営を支え、子どもたちの学習支援を行っています。日本語を教え、学校の宿題、ドリル、漢字、また、一緒に日本語でゲームや工作をします。保護者とは日本語の会話の練習など、それぞれの家庭のニーズに寄り添ってサポートしていただきます。



中村 隆さん

ボランティア

立ち上げから参加して1年半程になります。はじめは支援の型も手探りで試行錯誤してきました。最近は子どもたちとほぼ日本語で会話しながら、ひらがななどの読み書き練習や宿題のお手伝い、絵本や工作など思いつくだま一緒に遊んでいます。多くのお子さんは生活言語として日本語に触れているので上達の早さに驚かされます。子どもたちの元気な姿や豊かな発想に触れて幸せな気持ちになります。

■ プロボノ

プロボノとは、専門スキルを活かして無償で非営利活動を支える社会貢献活動です。

JIIでは、法務・会計・広報・ITなど多方面に渡るプロボノの皆さまが活動を支えてくださっています。

主にGoogleの非営利向け広告の運用で関わらせていただいています。人は、知らない他者には無関心で、時に無遠慮に批判・非難できてしまう生き物ですが、一方で、隣人を知り、触れ合うだけで、関心や思いやりに変えられる生き物でもあります。その変化の担い手として、OFPが果たす役割は非常に大きいと感じています。これからも微力ながらJIIの「おとなりさん」になれるよう頑張りたいと思います。



岡田 吉弘さん

マーケティング支援

プロボノ募集中！一緒に多文化共生を目指しませんか？

ご自身の専門知識を活かし、JIIの活動を支えてくださる方を募集しています！

詳しくは右のQRコードからご確認ください。



川の歩み

ご報告：2026年6月4日、JIIは認定NPO法人になりました！

東京都外国人支援助成事業



即興劇による意識啓発公演

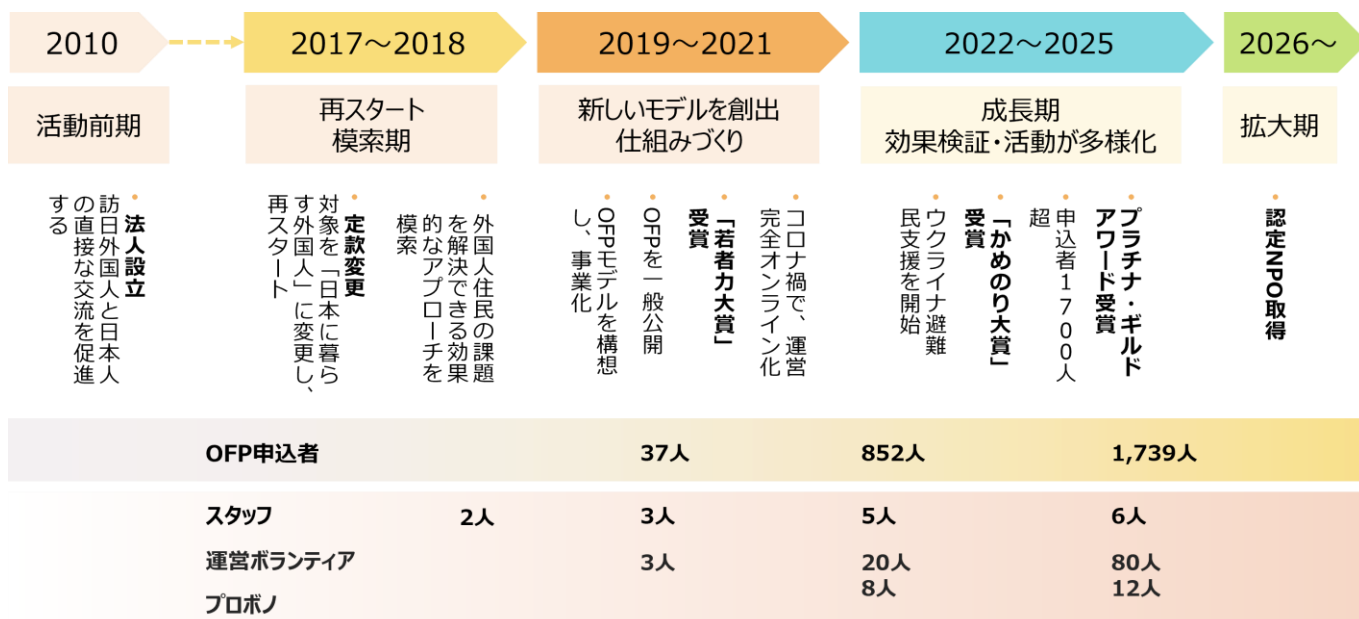


専門家による多言語子育て相談会

日本初の取り組み：OFPを立ち上げ



これまでの経験やヒントを活かし、日本で初めて市民主体で外国人住民を受け入れる仕組みを考案しました。半年間のパイロット運営を経て、2020年に一般募集を開始しました。



2026年度のJII ～ 来年の目標 ～

1

OFP事業・スポットおとなりさん事業の認知度の向上

- 参加者のユーザビリティの向上を目指し、発信力を高めます。
- より多様な方にJIIを認知してもらえるよう、デジタル発信や広報を強化します。

2

外部との連携強化による参加者数の拡大

- 企業・自治体・他団体との連携を増やすことで、OFP・SPOT参加人数の増加を目指します。
- 関係者や社会一般に向けて、JIIの取り組みや成果を共有する機会を積極的に設けます。

3

コミュニティの活性化

- OFP会員主導のミニイベントを開催する仕組みづくりやリアルイベントの開催を通じてコミュニティ内の横のつながりを作り、情報交換と学習機会を提供します。

4

運営効率を高め、組織基盤を強化

- 適切な場面でAIツールを有効活用し、活動の運営効率の向上を目指します。

ご支援のお願い

JIIへのご寄付は、寄付金控除など税制優遇の対象になります！

皆さまのサポートのおかげで、JIIは2026年6月4日付で「認定NPO法人」の認定を取得いたしました。これからも変わらぬご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

■ クレジットカード

ご寄付いただいた方には、年次活動報告書をお届けいたします

JIIパートナーズ（継続のご寄付）

毎月ご指定の金額で
ご支援いただけます



都度のご寄付

お好きな時に、
ご指定の金額でご支援いただけます



■ 銀行振込

- ・ 銀行名 ドコモSMTBネット銀行（旧住信SBIネット銀行）（金融機関コード 0038）
- ・ 支店名 法人第一支店（支店コード 106）
- ・ 口座種類 普通
- ・ 口座番号 1418300
- ・ 名義人 漢字 特定非営利活動法人アジア人文文化交流促進協会
カナ トクヒ）アジアジンブンブンカコウリユウソクシンキョウカイ

寄附金受領証明書を発行させていただきますので、
お名前、ご住所などの情報をお知らせください。

[入力フォーム](#)▶

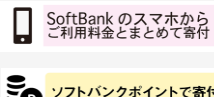


JIIは「benevity」の認証団体です

社員寄付

benevityのポータルサイトから、JIIのID「392-5742229403136_56c5」
または「Japan Intercultural Intelligence」で検索してください

ポイント寄付「つながる募金」



遺贈のご寄付を受け付けております

お好きな金額でご寄付いただけます。JIIは認定NPO法人のため、遺贈・相続財産のご寄付は相続税の課税対象外となり、税控除も受けられます。お気軽に事務局までお問い合わせください。

正会員募集

正会員には総会での議決権があります。年に一度、活動報告書をお届けいたします。
< 正会員費 > 個人：一口 5,000円／年 団体：一口 20,000円／年

[お申込](#)▶



お問い合わせ ▶▶▶



info@j-ii.org



03-6452-3760

外国人住民と共に生きよう

JIIが見ている未来は——

外国人を含めた多様性が活かされる社会です。

「人々がそれぞれの文化の良さを保ちながら、
様々な文化の持つ素晴らしさを楽しむことができる。」

互いにとって暮らしやすい「良き隣人」として、共に生きる。」

そして、素晴らしい文化同士の出会いによって、

「新たな公共文化や価値を創造することができる」

そんな文化共生社会を目指しています。

「外国人住民が日本社会になじみやすくする」ことが私たちのミッションです。
これからも応援、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします！

**マンスリー
サポーター
募集中！**

都度のご寄付でも
大歓迎です！

継続のご寄付



都度のご寄付



【発行・お問い合わせ】

認定NPO法人 アジア人文文化交流促進協会

Japan Intercultural Intelligence (JII)

Certified Nonprofit Organization

〒153-0064 東京都目黒区下目黒5-27-5

03-6452-3760

info@j-ii.org

<https://www.j-ii.org>



[npo_jii_tokyo](https://www.instagram.com/npo_jii_tokyo)



[JII.Tokyo](https://www.facebook.com/JII.Tokyo)

